

T1771

(調和振動子
(量子力学的)

- 分子テンシカルカ
フックの法則に従う

$$V(x) = \frac{1}{2} k x^2 = \frac{1}{2} k (l - l_0)^2$$

(1の不定数)
力の定数

- すると、一次元の調和振動子の
シル-ディンガ方程式は

$$\hat{H}\psi = E\psi$$

$$\left[-\frac{\hbar^2}{2\mu} \frac{d^2}{dx^2} + \frac{1}{2} k x^2 \right] \psi = E\psi$$

換算質量

$$\therefore \boxed{\frac{d^2}{dx^2} \psi(x) + \frac{2\mu}{\hbar^2} (E - \frac{1}{2} k x^2) \psi(x) = 0} \quad (5.26)$$

この微分方程式は、定係数をもたないので、2.2節 p.45 下から の様に
解くことはできない。

→ 一般的な解法はない、個別の問題に

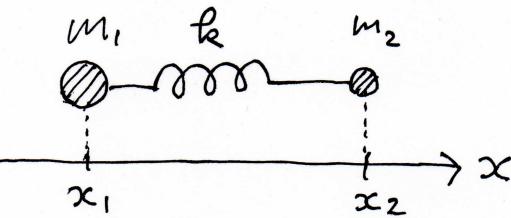
参考書には

見て参考なければいけない。

→ 具体的にどうするか?

教科書では省略 → 参考書を参照。

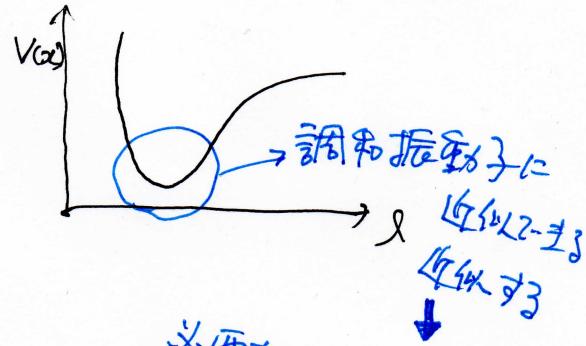
少し上級の



$$x_2 - x_1 = l$$

x_0 : 平衡位置

「調和振動子」



必要なモデルを修正する
近似する

行儀のよい有限な解を求めたい

(一価・有限・連続)

求めると → 离散的な

エネルギー準位

$$E_v = \hbar \left(\frac{k}{\mu} \right)^{1/2} (v + \frac{1}{2})$$

量子数: $v = 0, 1, 2, 3, \dots$

非負の整数 non-negative integer

$$= \hbar \omega (v + \frac{1}{2})$$

$$= h\nu (v + \frac{1}{2})$$

$$\left(\because \omega = \left(\frac{k}{\mu} \right)^{1/2}, \nu = \frac{1}{2\pi} \left(\frac{k}{\mu} \right)^{1/2} \right)$$

角振動数

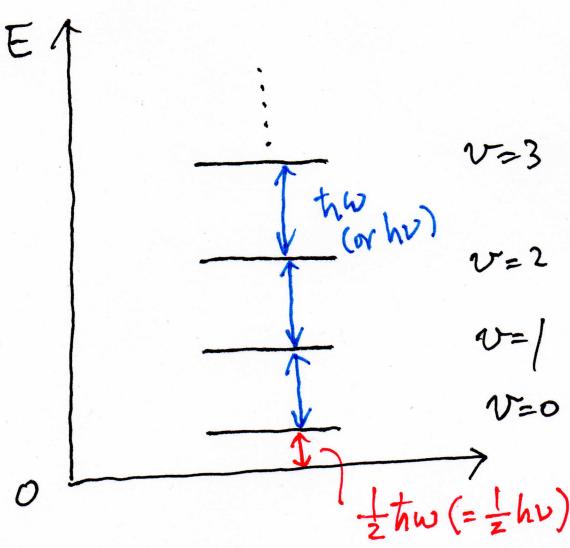
角周波数

振動数

周波数

⇒ エネルギー準位は
 $\hbar\omega$ (または $h\nu$) で
 等間隔

図5.1 まかん



・ エネルギーは量子化されている
 ↳ 量子数 v

・ エネルギー準位の間隔は
 等間隔である

$$\Delta E = E_{v+1} - E_v$$

$$= h\nu (\hbar\omega)$$

・ 最低エネルギー ($v=0$) のとき

$$E_0 \neq 0: \text{有限の値}$$

$\frac{1}{2}h\nu \dots$ 零点エネルギー

・ エネルギーがゼロであるためには、

古典的エネルギーがないとは

$$\frac{\dot{x}^2}{2\mu} + \frac{kx^2}{2} = 0$$

だが、こうなるためには $p=0, x=0$ なければならない

↳ 不確定性原理に反する

零点運動

③ 二原子分子の赤外線吸収スペクトル
(第13章 p.531)

二原子分子、ホモニシカルな調和振動子モデルによる考え方

振動エネルギー準位

$$E_v = \hbar\omega(v + \frac{1}{2}) = h\nu(v + \frac{1}{2}) \quad v=0,1,2,\dots$$

$$= \hbar \left(\frac{k}{\mu}\right)^{1/2} (v + \frac{1}{2}) = h \frac{1}{2\pi} \left(\frac{k}{\mu}\right)^{1/2} (v + \frac{1}{2})$$

電磁波(赤外線)の吸収は、ホモニシカルな振動数条件

$$E_{v'} - E_v = \Delta E = h\nu \quad \text{観測値}$$

選択則 は

$$\nu' - \nu = \Delta\nu = \pm 1$$

即ち、隣接した準位間の遷移のみが許容される。

$$\Delta E = E_{v+1} - E_v = \hbar\omega \{ (v+1 + \frac{1}{2}) - (v + \frac{1}{2}) \}$$

$$= \hbar\omega$$

(すなはち、吸収された電磁波(赤外線)の振動数は

$$\underline{\nu_{\text{obs}} = \frac{1}{2\pi} \omega = \frac{1}{2\pi} \left(\frac{k}{\mu}\right)^{1/2}} \rightarrow \text{基本振動数}$$

(observed)

現実の二原子分子では、基本振動数は 10^3 cm^{-1} の赤外線領域

④ ${}^1\text{H}^{35}\text{Cl}$ の場合: $\tilde{\nu}_{\text{obs}} = 2.886 \times 10^3 \text{ cm}^{-1}$

$$(\nu = c \tilde{\nu})$$

光速度
振動数
波数

$$k = (2\pi c \tilde{\nu}_{\text{obs}})^2 \cdot \mu$$

$$= \dots = 480.7 \frac{\text{kg s}^{-1}}{\text{nm}} \text{ N m}^{-1}$$

(5) 5.3

④

$^{75}\text{Br}^{19}\text{F}$ の場合: $\tilde{\nu}_{\text{obs}} = 380 \text{ cm}^{-1}$

$$\text{F}_k = (2\pi c \tilde{\nu}_{\text{obs}})^2 \cdot \mu$$

$$= \dots = 128.97 \text{ Nm}^{-1}$$

- 二原子分子の力の定数 ... およそ 10^2 Nm^{-1}

表5.1 p.182 ... 基本振動数、力の定数、(結合長)

赤外線の吸収 ... 結合の強さ: F_k 力の定数
 ↑

$\left\{ \begin{array}{l} \text{ホ-アの振動数条件 } \Delta E = h\nu \\ \text{選択律 } \Delta V = \pm 1 \\ \text{分子の双極子モーメントが振動する} \end{array} \right.$

↓ HCl, BrF ... 赤外線を吸収する

N_2, O_2 ... 赤外線を吸収しない

調和振動子の波動関数

$$\psi_n(x) = N_n H_n(\alpha^2 x) e^{-\alpha^2 x^2/2} \quad (5.35)$$

$$\therefore \alpha = \left(\frac{R\mu}{\hbar^2} \right)^{1/2} = \frac{(R\mu)^{1/2}}{\hbar} = \frac{\mu\omega}{\hbar}$$

$$N_n = \frac{1}{(2^n n!)^{1/2}} \left(\frac{\alpha}{\pi} \right)^{1/4} \quad : \text{規格化定数}$$

$H_n(\alpha^2 x)$: エルミー多项式
(表5.2, p.183)

$$H_0(\xi) = 1 \quad H_1(\xi) = 2\xi$$

$$H_2(\xi) = 4\xi^2 - 2 \quad H_3(\xi) = 8\xi^3 - 12\xi$$

⋮

調和振動子の波動関数 表5.3, 図5.8

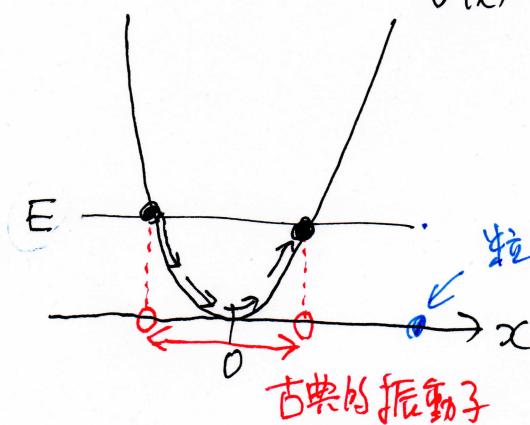
無限遠!

$$\psi_0(x) = \left(\frac{\alpha}{\pi} \right)^{1/4} e^{-\alpha x^2/2}$$

$$\psi_1(x) = \sqrt{2} \left(\frac{\alpha^3}{\pi} \right)^{1/4} x e^{-\alpha x^2/2}$$

⋮

$$V(x) = \frac{1}{2} R x^2$$



ポテンシャルの外まで
粒子の存在確率がある
!!

波動関数の取出

期末レポート課題 (Moodle)

(受付) 2/09(木)

書面2提出

郵送可 (消印有効)